

銚子市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に記載した施策について

(令和4年10月末時点)

(1) ウイズコロナ禍での介護予防

市では平成27年度から銚子プラチナ体操を推進し、各団体の活性化や他の団体との交流を図るため交流会を開催してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年度、3年度は実施を見送りました。今年度は、介護保険事業費補助金（通いの場の再開・推進支援事業）を活用して、開催回数を増やし、参加人数を抑える（各団体2名定員）など、感染防止対策を図った上で、11月の4日間で実施を予定しています。内容は、部分的な体操や脳トレ、リハビリ職による講話となります。交流会の内容を各団体に持ち帰ることで団体の介護予防の推進および活性化を図ることが目的となります。

(2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

立ち寄り型の健康相談を保健センターや6中文化祭にて実施し、今後も保健センターやイオン銚子にて実施予定となっています。体力測定を実施し、その結果からフレイル予防の周知啓発を行い、意識づけを図っています。

またプラチナ体操団体に対して、保健師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士がフレイル予防の健康教育を行っています。

実績：立ち寄り型の健康相談 2か所 延べ8回 参加者数119人

プラチナ団体への健康教育 2か所 延べ3回（R3年度未実施団体分）

(3) 新たな介護人材の確保について

介護保険サービスに従事する者の確保及び介護保険サービスの安定的な提供を図るため、介護職員初任者研修又は介護福祉士実務者研修の課程を修了した方であって、6月以上継続して銚子市内の同一の介護保険サービス事業所に勤務している方に対し、令和4年度から、銚子市介護職員初任者研修等費用補助金を支給しています。

交付実績：3件 内訳 介護職員初任者研修課程修了者 1件

介護福祉士実務者研修課程修了者 2件

(4) 認知症施策の推進（どこシル伝言板）

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症により徘徊行動がみられる在宅の高齢者を介護する家族又は介護者に対し見守りシールを交付しています。

二次元コード付きラベル・シールを、衣類や常時携行する物へ貼付してもらうことにより、外出時に行方不明となった際、発見者がラベルの二次元コードを読み取ることで、登録されている保護者（介護者）へ瞬時に発見通知メールが届き、迅速な保護へつながることができるシステムです。高齢者及びその家族、発見者の情報は開示されず、個人情報も守られる仕組みとなっています。

認知症SOSネットワークとあわせて登録していただき、家族介護者への支援とともに、市民への周知啓発に取り組み、地域での見守り体制の整備を図ります。

交付実績：2件